

【秋葉区】商店街活性化イベントの事例について

<p>事業名 (イベント名)</p>	<p>にいつハロウィン仮装まつり</p>
<p>事業者</p>	<p>にいつハロウィン仮装まつり実行委員会</p>
<p>実施背景</p>	<p>新津市が新潟市と合併した翌年に、地域活性化を目指す若手経済人や大学生により「新つくる会（にいつくるかい）」が結成された。そこでの議論を基にハロウィンイベントを目指すこととなった。</p> <p>平成19年に初の「にいつハロウィン仮装まつり」を開催。約600人の参加者を集めた。今日と比較すれば「ハロウィン」の認知度も相当に低かったが、それ以降、毎年10月に開催し、令和元年で13回目を迎えた。</p>
<p>概要・内容</p>	<p>【イベント概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時期 10月最終土曜日 ・会場 新津本町通り 路上 ・内容 スタンプラリー、キャラクターショー、仮装コンテスト、仮装パレード、飲食ブース <p>【工夫・独創性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハロウィンに馴染みのある若者だけではなく、地域住民が家族で楽しめる事を目指し、子ども向けの仕掛け（お菓子のもらえるスタンプラリー、キャラクター等）が重視されている。 <p>【地域資源活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パレードのフロートがSLを模しているなど「鉄道の街にいつ」らしい工夫がなされている。 <p>【運営主体の特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初開催時から変わらず、地域活性化を志す若者が中心。会社経営者、商店主、団体職員など、肩書きは様々。新潟薬科大学生も参画。
<p>成果</p>	<p>【観客動員数】6,500人</p> <p>【商店街活性化への成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の中心地がその商店街（新津本町）であるというイメージを醸成。商店街の利用が少ない子育て世代に特に効果的なPRとなっている。 ・イベントが近くなると、ハロウィンにちなんだ特別メニューが、和洋菓子店、スーパー、飲食店などで提供される。また、イベント前日から始まった「にいつナイトステーション」（いわゆる「バル街」のような飲み歩きイベント）との連携を通じて、イベントや店舗の積極的なPRを行うことができた。
<p>今後の課題</p>	<p>開始当時と異なり、今日では県内でも多くの街でハロウィンイベントが開催されていることから、他の地域や団体との連携も図ることで多くの来場者につなげたい。また、パイオニアとして進化し続けることで「ハロウィンの街 にいつ」をPRしていきたい。</p>

